

下町河川 Tomorrow



東京都の江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成26年1月21日（火）

第49回（第7期第7回）江東内部河川流域連絡会を開催



会議の様子



江東区中川船番所資料館見学の様子

- ・「第49回（第7期第7回）江東内部河川流域連絡会」を、午後2時から午後4時30分の約2時間30分、江東区東大島文化センター及び江東区中川船番所資料館にて開催しました。
- ・都民委員16名と行政委員9名が参加しました。⇒名簿は6ページ
- ・都民委員・行政委員から情報提供が行われました。その後、中川船番所資料館の久染様より「江東内部河川の歴史と文化」と題して講演をしていただき、さらに、中川船番所資料館の見学を行いました。

情報提供

1. 都民委員・行政委員からの情報提供・話題提供

・都民委員及び行政委員より、次のような情報提供がありました。

①旧中川ボートフェスティバル

- ・開催日 4月13日（日）午前10時から午後3時
- ・会場 もみじ大橋～さくら大橋の間
- ・内容 ボート体験、カヌー体験、Eボート体験、ドラゴンボートの対抗レース



②亀戸合同水難訓練

- ・平成25年9月21日に実施。今回初めて亀戸9丁目町会・城東警察署・警視庁第9機動隊と合同で水難訓練を実施した。

③石田波郷生誕百年記念2013・江東歳時記文学碑完成

- ・俳人・石田波郷生誕100年を記念して、小名木川駅跡と小名木川・進開橋に記念碑を設置した。小名木川駅跡の碑は、石田波郷と小名木川駅(貨物駅)を兼ねた記念碑となっている。



④水陸連絡貨物駅・小名木川駅の歴史

- ・小名木川の河畔に水陸連絡貨物専用駅として昭和4年から平成12年まであった。

⑤墨田区中学校ボート部の廃部

- ・これまで27年間続いてきた墨田区中学校のボート部は全国制覇を2度達成したが、平成26年8月頃に、中学校の部活動としては廃部となる。

⑥旧中川・川の駅1周年記念イベント

- ・開催日 3月15～16日 午前10時から午後5時30分
- ・会場 旧中川・川の駅
- ・内容 動力船、カヌー、和船を運航予定

⑦お江戸深川さくらまつり

- ・開催日 3月29日～4月20日
- ・内容 和船、動力船を運航予定（土日）

⑧ミツカン水の文化センター第15回里川文化塾について

- ・雨水に着目して約30年前からさまざまな取り組みを進めてきた墨田区では、雨水を貴重な水資源と考えて、暮らしに結びつける取り組みの講演内容について説明があった。

⑨江東区子供カヌー大会

- ・平成26年9月21日に開催する。
- ・会場 旧中川・川の駅付近

2. 講演「江東内部河川の歴史と文化」（江東区中川船番所資料館 久染氏）

江東区は、水辺・運河の町です。江戸時代から相次いで開かれた掘割、運河は内陸河川として江戸の経済を支え、独特の景観を生み出してきました。

戦後、戦災復興事業や治水対策などで、いくつかの運河は姿を消しましたが、まだまだ多くの運河が残っています。江戸時代を中心に、その歴史をみていきます。

（本構成・文章は当日配付資料を基にしています。）

①江戸の成立と河川

- ・天正 18 年（1590）新城下町・江戸の建設。関東領国から年貢米ほかの物資を江戸へ搬送するシステムづくり（掘割の整備、舟運のための利根川改修工事等）が行われた。

②江東の川・江戸初期

- ・幕府所在地として大都市化を予感させる江戸の拡大が江東地域に及び、河川開削がなされた。
- ・小名木川は 1590 年、徳川家康の江戸入府とともに開削された。その後、1644～48 年頃に隅田川口の万年橋北に川舟番所が置かれた。
- ・江東地域では、万治年間の頃（1658-1660）に、六間堀（千歳 2～常盤 1）、五間堀（新大橋 3～森下 3）が開削されたとみられる。

③木場の深川移転と堀割

- ・寛永 18 年（1641）日本橋桶町の火事で大半を焼かれた江戸を火災から守るため、材木置場を深川の隅田川沿岸に移転した。そのため、搬送・貯木のため、仙台堀川（当初は入り堀として整備）、中之堀（佐賀 2）、油堀（佐賀 2～木場 2・3）を掘削開削した。

④江東の川 明暦の大火

- ・明暦 3 年（1657）明暦の大火後、本所深川の開発が本格化した。本所は旗本・御家人の屋敷街、深川は「蔵の町」となった。小名木川の船番所を隅田川口から中川口へ移設したのもこの時期である。
- ・明暦の大火後、北十間川（1658～60 年の万治年間開削）、竪川（1659 年開削）、横十間川（1659 年開削、小名木川以北）、大横川（1659 年開削、小名木川以北）が開削された。

⑤木場再移転と川の延伸

- ・元禄 14 年（1701）木場が隅田川沿岸から富岡八幡宮東方の入江を埋め立てて移転。同時に新たに土地が造成され、深川が拡大した。
- ・隅田川沿岸の材木置場を東方の入江に移転し、隅田川河口部の流通拠点化を図った。
- ・仙台堀・中之堀・油堀を清澄通りより東へ、大横川・横十間川を小名木川以南へと延伸した。

⑥深川南部の川

- ・深川堀割臨海部の外郭として、大島川（木場 5～永代 1）や洲崎川（東陽 3・4～新砂 1・2）が開削された。これらは、水害から街を守るための運河として機能した。
- ・洲崎川は江戸時代には海岸線であった。明治 19 年（1886）の洲崎遊郭が誕生した際

に埋立地の北辺を埋め残して成立した。

⑦城東地域の川

- ・境川（現清洲橋通り）は、田畑の用水として利用された水源だったが、関東大震災後に埋め立てられた。
- ・砂町運河は、大正6年（1917）の高潮で被災した砂町地区の復興と工業発展のために開削され、砂町地域の都市化に貢献した。

◎江戸の運河

- ・「確実に安全に大量に人やモノを運ぶ」ためのもっとも有力な手段が運河（掘割）だった。

当時の木造船で往来するには海は大変な危険を伴った。

新たな土地の開発の際にも、埋め残して川をつくり（地続きにしない）、新開地の造成に必要な資材や開発後の食料等の運搬にひろく使用された。

→江戸初期からのこうした考え方が江東内部河川の開削にも生かされている。

【質疑応答】

◆質問者（都民委員等） ◇回答（久染氏）

◆当時はどのようにして川や堀の工事を行ったのか。また、開削で出た土はどこへいったのか。

◇掘ったのは全て人力です。掘った土砂は江東の南側の土地を造成するための埋立に使いました。

◆元禄の大地震で木場のあたりの津波の被害はどうだったのか。

◇その当時は木場が完成していませんでした。当時は津波等も始終あったと思われ、災害の一つとして「慣れ」もあったのではないのでしょうか。

◆仙台堀川は仙台藩が作ったものではないのか。

◇仙台堀川は幕府が整備したものです。仙台藩は、神田川の掘削を行って、神田川を一時仙台堀と呼んだことがあります。

◆江東内部河川の川の開削を諸藩が「お手伝普請」として関わることはなかったのか。

◇江東内部河川の川の開削は諸藩に手伝わせたという記録はあまりありません。幕府が主導的に整備しています。

◆江東内部河川の開削の文献は残っているのか。

◇個別の資料は非常に少ないのが現状です。資料としては、「江戸町方書上」や、「旧幕引継書」等があります。



湊稻荷社 天保7年（1836）の様子
（「江戸名所図会」）



小名木川五本松 天保7年（1836）の様子
（「江戸名所図会」）

3. 中川船番所資料館の見学

会議及び講演の後、江東区中川船番所資料館を見学しました。

資料館は、次のような性格の施設です。

①「水運」の専門館

- ・区内を流れる小名木川と中川に接した場所に、江戸時代に設置された中川番所を主軸に、関東・全国に広がる水運を利用した人・ものの交流や活動の歴史を紹介する。

②地域に根ざした資料館

- ・地域に根ざした資料館に主眼を置くとともに、区内既設の資料館との連携を深め、資料館ネットワーク化の一翼を担う。

③郷土の歴史の理解を促す資料館

資料館は、同館の久染氏のご案内により、見学しました。



中川番所の再現（ジオラマ）

平成7年の発掘調査と江戸時代後期に描かれた絵画資料に基づき、中川番所をジオラマで再現している。



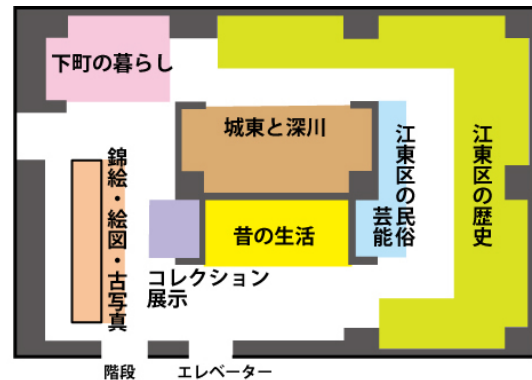
江戸・東京の水上交通

江戸と関東周辺を結ぶ河川水運や、水運の近代化、川と人々の暮らしが紹介されている。



展望室

展望室からは、旧中川と小名木川の風景、番所跡が展望できる。



2階展望室

2階は、「郷土の歴史・文化紹介展示室」として、江東区の歴史や文化をより深く学べる展示が行われている。

第 7 期 江東内部河川流域連絡会委員名簿

■都民委員

(敬称略/◎座長)

	住 所 ・ 団 体 名	氏 名
個 人	墨田区	岩井 希義
	墨田区	小久保 健司
	墨田区	篠崎 哲夫
	墨田区 (在勤)	正岡 久武
	江東区	菊地 進一
	江東区	黒木 正幸
	江東区	渡邊 晶子
	江戸川区	石田 正博
	江戸川区	大森 英一
	江戸川区	金子 蔵
	江戸川区	菅原 資子
	江戸川区	高野 祐子
	江戸川区	山内 久二
	江戸川区	吉田 誠一
団 体	江東区カヌー協会	小宮 次夫
	江東区の水辺に親しむ会	須永 淑子
	和船友の会	根本 明洋
	旧中川灯籠流し実行委員会	江頭 正恭
	小松川平井地区連合町会	谷川 貞夫
	江戸川区ボート協会	渡辺 秀朗

■行政委員

(敬称略)

	所 属 ・ 職 名	氏 名
	墨田区 都市整備部 道路公園課長	田中 正明
	江東区 土木部 河川公園課長	高垣 克好
	江戸川区 土木部 水とみどりの課長	多賀 美代
	東京都環境局 自然環境部 水環境課長	田中 淳一
	東京都下水道局 東部第一下水道事務所 ポンプ施設課長	石黒 雅春
	公益財団法人 東京都公園協会 水辺調整課長	園尾 学
	東京都建設局 河川部 計画課 低地対策専門課長	岡上 樹
	東京都建設局 河川部 指導調整課 河川管理制度担当課長	若井 太郎
	東京都第五建設事務所 管理課長	岩倉 俊明
	東京都江東治水事務所 内部河川工事課長	内野 祐彰 ◎
	東京都江東治水事務所 水門管理課長	清水 幸良

連絡先：江東内部河川流域連絡会事務局（東京都江東治水事務所内部河川工事課内）

担当：高木、木村

TEL：03-5875-1565

Email-address：S0200225@section.metro.tokyo.jp